

## 6月13日(金) 研究発表会 県内外から500名余参加

### 「学ぶこと」と「生きること」の統合

— 語り合う中で、自己の「ものがたり」をつむぐ —

6月13日(金)、平成26年度附属坂出中学校教育研究発表会が、晴天のもと盛大に行われました。

当日は、県内外の幼・小・中・高・大学および教育関係機関などより500名を超える参会者をお迎えし、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。今回の研究発表会では、ナラティブアプローチとしての「語り」の研究を継続しつつ、研究の主眼を「学びの価値」の実感を重視した自己物語へと発展させ、生涯学習を視野に入れた「学ぶこと」と「生きること」を統合を具現化する具体的な指導方法やカリキュラム構想について提案しました。

#### 総合学習シャトル

総合学習「シャトル」は、総合学習「CAN」における探究学習に必要なスキルを異学年合同で学ぶ場として実施してきました。今回の研究では、異教科の教師がペアになり講座内容を新たに開発し、各教科の枠を取り払った探究的な学びの場として展開しました。開設する講座内容は前回大会を継続して「基礎編」と「実践編」に分けることで、探究の仕方をよりスモールステップで確実に習得できるよう工夫し、さらに「基礎編」と「実践編」の間に「特設講座」を設け、16の基本スキルから自分に必要な三つのスキルを選択して学び、「実践編」や総合学習「CAN」に活かすことができるようにしました。大会当日は八つの新たな講座で探究スキルを習得している「基礎編」の様子を公開しました。



【発想！爆SHOW！衣装大SHOW】



【想いを形に一瞬を物語に自分を表現】



【白熱！変数教室】



【魅力ある表現を探り、自ら創り、発信しよう】



【気づき！発見！身近な世界！】



【集めて見たら・・・そうだったのか】



【アイトリックの不思議】



【疑問解決への架け橋】

#### 教科・学校保健

学ぶ意欲を向上させるために、「自己の『ものがたり』をつむぐ」授業とカリキュラムを提案しました。「ものがたり」の授業とは、自己を形成し、自己実現を図る学びです。学んだことを語り

直し、自己の学びの文脈の中で、学ぶことの価値を実感していきます。その際、個々の生徒の得意、興味、学習スタイル等の特性を表す認知的個性を授業に取り入れることで、より質の高い学びを実現させることができれば生涯にわたって学び続ける意欲につながると考え実践しました。当日は各教科において、具体的な単元構成および授業実践を、学校保健においては「生涯にわたる健康で健全なライフスタイルの確立をめざした健康相談の在り方」を提案しました。



【国語】



【数学】



【音楽】



【技・家】



【美術】



【保健体育】



【外国語】



【理科】

## 鼎 談

2名の先生方をお招きし、「新しい時代の〈意欲を育む〉授業づくり」のテーマのもと、それぞれの研究の立場からご意見をいただきました。松村暢隆先生(関西大学文学部教授)からは、認知的個性を活用し学習に活かしていく「個性を活かす学び」について、秋田喜代美先生(東京大学大学院教育学研究科教授)からは、「ともに学び合うこと」についてお話いただきました。今後も本校の研究を自信をもって進めていける、大きな力を与えてくださいました。



## 講 演

秋田先生には「自己の物語をつむぐ授業」という演題でご講演いただきました。授業において具体的に教材、教室のコミュニケーション、授業の展開を考え、教師がいかにかかわり、学び合いを深めていくか、それぞれの学びの物語の保証に向けた授業づくりについて、本校や全国の中学校での取り組みや実践を具体例をあげながらわかりやすくご提案いただきました。



## 研究発表会を振り返って・・・

各教科等の研究協議会やアンケートでは、参観者の方々から本校の研究実践について多くの賛同の声が寄せられました。また、生徒たちが自ら質問したり、語ったりする姿にも高い評価をいただきました。これも本校生徒一人ひとりの頑張り、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご理解があつてのことと深く感謝し、今大会の成果と課題も踏まえ今後も本校の研究実践を全国に発信していきたいと思っております。